

東日本ユニオン よこはま

J R 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

2017春闘始まる！

連合は「2%程度を基準とする」ベースアップを要求

日本労働組合総連合会（連合）は、2017春闘における賃上げ要求水準として、底上げ・底支え、格差是正に寄与する取り組みを強化し「2%程度を基準とする」とした上で「定期昇給相当分（賃金カーブ維持相当分）含めて4%基準とする」ことを決定しています。

連合の神津会長は1月19日の記者会見で、経団連が年収ベースの賃金引上げを打ち出していることに対し、従業員の基本給を一律に引き上げるベースアップ（ベア）に重点をおく方針を説明。

「デフレ脱却には、賃金が毎年上がって行く確信が必要」と語っています。また「昨年から底上げ春闘に取り組み、持続性や広がりを持たせるには、（2年目となる）今年が重要」との認識を示し、年収ベースの賃金引き上げに対しては「収益に左右される一時金の増額で対応しようとするように見える。賃上げは月例賃金の引き上げという常識を取り戻すと」語っています。

4年連続の賃上げを呼び掛ける経団連

政府が賃上げを強く要請し、経済界もそれに同調する4年連続の「官製春闘」の様相を呈しています。経団連は今月から始まる春闘を前に、加盟する1300の大企業に向けて、今年の賃上げなどの方針を公表。昨年度よりも収益が減っていたとしても「収益体質が改善している企業」については、ベアやボーナスなどを柱として、年収ベースでの賃上げに加え、労働時間の短縮など働き方改革も促しています。

4年連続で賃上げの機運を維持するとともに、労働環境を良くすることで、経済界として消費を促すなど、経済成長を後押ししたい狙いがある。一方で、4年連続で賃上げしたとしても、将来への不安が取り除かれなければ、消費拡大への効果は限定的だと指摘し、政府に対して社会保険料の抑制など改革を強く求めています。

JR東日本の業績は好調を維持！

年末年始輸送期間（12月28日から1月5日まで）のご利用状況では、昨年の387.5万人を上回る399.7万人（対前年比103%）特に新幹線（対前年104%）を中心に好調な収益を得ています。

賃上げ満額回答を得るためには、政治主導の春闘ではなく、全JR労働者の団結による労働組合の結束力が必要です。2月11日の中央委員会で決定される春闘要求満額獲得に向け、職場から「2017春闘」のたたかいをつくりだそう！！